



柏の実苑 中部地区球技大会



柏学園 プール遊び

光陰矢のごとしと申しますが、令和八年度も早くも半年が過ぎ、いよいよ折り返し地点を迎えようとしています。夏の疲れが出やすい時期ですが、利用者の方々は体調を崩すこともなく、元気に日々の活動に励まれています。

「自分の支援は間違っていない」と自信になります。しかし、自事業所では取り組みには難しいと感じたことに對しては「自分たちにはできない」と捉えてしまっていたように感じます。今回このお話を聞き、捉え方や考え方で学びが大きく変わるという、とても大切なことを学ばせていただいたことで、「関係ない」という見方ではなく、「チャンス」という見方をし、違いの中から学べることを探していき、少しでもよい支援に繋げていけるようにしていきたいと思いました。そして、研修会での学びだけではなく、普段の支援や活動に対しても「できない」ではなく「どうすればできるようになるのか」という考え方をし、利用者の方々が少しでも楽しい時間が過ごせるよう日々模索していきたいと思えます。

発行所
社会福祉法人
柏 学 園
広島県安芸郡府中町
青嶋東7-12
TEL (082) 282-6500
発行人 **米川 晃**
印刷所
株式会社 中本本店
TEL (082) 221-9181



学びとは

柏の実苑 苑長 藤賀景子

TEL (082) 282-6500

Dr. Yoonhee Park is an Assistant Professor at the Department of Health, Behavior, and Society, Johns Hopkins University. She is also a senior research advisor at the Center for Communications Programs, Johns Hopkins University. Her research interests include adolescent reproductive health, maternal and child health, and adolescent pregnancy. She has been involved in several international research projects in sub-Saharan Africa and Southeast Asia. She has published numerous peer-reviewed articles and book chapters on these topics. She is currently leading a research project on adolescent reproductive health in Cambodia.

私は緊張しやすく、初めて行うことや人前に立って何かをすることが苦手です。周りの人か

キして不安で頭がいっぱいになっていることもあります。勤め始めの頃はクラスの朝の会でもお子さんの前に立つと緊張してしまい、動きや声が小さくなっていました。親子通園や行事など多くの人が集まる場面では、今でも緊張から汗をたくさんかいたり、話すテンポが速くなったり、視線を合わすことができなかったりします。このように今でも緊張する場面は色々ありますが、初めの頃と比べると緊張度合いは低くなってきたように思います。その理由を考えた時に、繰り返し行う中で自分に自信が持てるようになったこと、お子さんや保護者の方、職員が温かく見守ってくれていることが大きいように感じます。特に周りの人たちの温かさに助けられることが多く、親子通園や行事では、お子さんや保護者の方が一緒に楽しんでくれたり、盛り上げてくれたりするので、緊張しつつも安心感があるため私自身も楽しむことができるようになりました。こうして考えた時に、お子さんたちの中にもとても緊張しやすい子がおり、緊張を完全になくすことはできませんが、楽しい雰囲気を作ることや、一緒に行くことで不安を軽減することなど安心感を持つてもらえるようにすることを大切にしていきたいと改めて思いました。

TEL (082) 282-6500

今年の六月より新しい試みとし、苑内で「朝の集い」を始めました。朝の九時二十分から全サークルの希望者が食堂に集まり、ピアノが得意な利用者さんの伴奏で季節の歌を歌ったりダンスをしたりしています。利用者の皆さん音楽が大好きということもあり、すぐにこの活動は定着しました。集いが始まると皆さんの表情がパツと明るくなり、朝から元氣な歌声が食堂に響いています。歌唱しながら「手のひらを太陽に」のダンスもうつすら汗をかくほど全力で踊ってくださる方もおられます。

毎朝利用者さんから「今日は歌するん？」と聞いてくださるようになり朝の集いを行うことをお伝えすると「やったー」と喜んでくださり、楽しみにしてくださっているようです。

伴奏を担当している利用者さんはピアノを家庭で練習してきてくださり、さらに毎朝時間に間に合うよう登苑され、キーボードの準備も一緒に行ってくださっています。その方のおかげもありこの活動が成り立っています。

七月はふれあい祭に向けた器楽練習の為朝の集いが休止になりましたが八月から再開。朝の集いの再開を皆さんにお伝えしたところ大変喜んでくださいました。

十分程度の活動ではありますが、利用者の皆さんの日々の彩になれば嬉しいです。これからも皆さんにとって心躍る活動が提供できるように支援していきます。

しかし高齢化も気象変化も自分の力では抗い難く、ありのままを受け入れて一日を精一杯生きる事で良い日に行き、この精神でこれからも過ごして行きたいと思います。

瀬野川学園相談支援事業所 相談支援専門員 次郎垣内 友成

はAIに代わる仕事ではないと思います。AIを使つて支援の質を高める、本人と向き合う時間を増やすために、AIの活用、AIを使える人になる事を考えなければ、と感じています。

改めて、「サービス等利用計画（障害児利用計画）」の作成は本人の思いを実現するためのひとつのツールではないのです。相談支援専門員は、福祉サービス支給決定を受けるための計画作成をするのがメインの仕事ではなく、本人や家族の夢や希望を叶えるために「ニーズを整理」して、かわる人たちに同じ方向性

を示して一緒に考えて行動していくチームを作っていく事が大切な役割だと思っています。そのためには必要な支援がある事が重要です。

これからたくさんの人とのつながりを大切にして、一人でも多くの利用者さんが将来、社会で本人なりの自立を行えるようにサポートしていきます。

七月七日に柏学園では七夕会を行いました。初めて七夕会の係になり、昨年度までの記録を参考にしながら同じ係の先輩職員と一緒に案を話し合いました。急な変化が苦手なお子さんもいるために、当日に向けて子どもたちに書いてもらった短冊を付けた笹を玄関に飾ったり、螺旋階段に星を貼ったりして、段階的に飾り付けを進めていきました。毎朝子どもたちと「七夕会もうすぐだね」「彦星様と織姫様来るかな」など話をしていました。

例年、四クラス合同で行事を行うのですが、今年は二クラス合同の二部構成で七夕会することになりました。最初に彦星と織姫に変身した職員の手遊びで子どもたちが視線を向けてくれたら七夕会の始まりです。彦星と織姫が挨拶をした後、「たなばたさま」の音楽に合わせて七夕のペープサートを行うと、子どもたちは興味津々で注目してくれました。今年度最初の園内行事であり、例年と異なる状態での開催だった

たため、子どもたちがどのような姿
 を見せるのか不安でしたが、椅子や
 マットに座ってお話をよく見て聞い
 てくれたのでとても嬉しく思いまし
 た。次に「それもいいね」のダンス
 を披露すると笑顔で見たり、踊りが
 好きな子どもたちが見よう見まねで
 踊ってくれたりしてとても嬉しかつ
 たです。最後にアンパンマンのペー
 プサートを短冊や笹などで七夕仕様
 にアレンジして行くと「あ！」と指
 を指して楽しんでくれました。

これから子どもたちに楽しんで貰えるような行事になるよう、どの行事もしっかりと準備をしていきたいと思えます。



柏學園
坂井
由紀子

七月二十四日、柏学園の公開療育が行われました。公開療育では、保育園、幼稚園、認定こども園の先生に柏学園の療育を知ってもらうことを目的として毎年実施しています。公開療育実施に向けて担任が各クラスでどんな活動をするかを考えることからスタートします。また、沢山の人の中で子どもたちがどんな反応をするか予測し、もし〇〇になったらの対応を考えよう、どう対応するか、様々なプランを考えよう

て公開療育に備えます。この流れは親子通園でも同じように考えて行っているのですが、公開療育は保護者ではない沢山のお客さんが来るので喜びよりも緊張する子の方が多いかと予測していました。

当日は約三十人のお客さんが来園されました。Bバスのお客さんはお客さんが集まる前に登園。いつも通りの朝の支度、いつも通りの自由遊びをしていました。廊下に少しずつ人が増えると緊張よりも好奇心の方が強く、教室の窓から「何人いるの?」と興味津々!隣のクラスからも「どうしているの?」と大きな声で投げかけているのが聞こえるほどでした。次にAバス、Cバスの子どもたちが登園。この時、廊下のお客さんは満員電車のよ

うに（笑）、その廊下を通らないといけ
ないのでBバスの子どもたちとは違
う反応でした。いつもはニコニコ笑顔
のお子さんも廊下を見て表情が固まる
子、抱っこを求める子、逆に嬉しさが
増しテンションが上がる子、緊張から
固い笑顔を見せる子など様々な反応で
した。人が増える前からクラスの中に
いる場合と、人が増えてからクラスに
入る場合では緊張の度合いの違いがよ
く分かりました。

ひまわり組の子どもたちも反応は様々で、泣くお子さんはいなかったのですが廊下から離れた場所で過ごす子、逆に窓から離れない子に分かれていました。

私たち職員はいつもと違うことに対して緊張するお子さんをいかに安心できる空間に変えることができるかを考えながら療育をしています。今回の公開療育を通して普段とは異なる環境やイレギュラーな状況におけるお子さんの反応を知ることができ、その時々に応じた柔軟な対応の大切さを学びました。これからお子さんの反応を見ながら安心してできる環境を作りつつ、一人ひとりが「これ楽しい!」「これやってみたい!」と思える支援を心がけます。

社会体験レストラン外出

柏の実苑
小西
文恵

前期の五月から七月にかけて、土曜日活動の一環として社会体験レストラン外出が行われました。レストラン、苑内活動のどちらか希望する方を選んでいただき、外出希望の方は四つの班に分かれて、期間中に一度のレストラン外出参加でした。当日現金を持参してもらい、雨天時を除いて徒歩移動で行われました。

暑熱順化を始めた五月、出発前にレストランのメニューを見ていただきながら水分を摂り、ゆっくり過ごしていただく時間をとりました。皆さん集まって「私、これがいい!」「次のページも見たいな!」「デザートは…」と盛り上がり、リラックスして過ごされました。帽子を被つていよいよ出発です。日差しが強く、公園の日陰のベンチで水分補給と休息をしました。その間もレストランの話で持ちきりでした。

レストランでは、会食しやすい並び席に案内されました。メニューを見て「これにする」「食後のデザー

トも食べたいな」「一番食べたいものがこれとして……」と予算内となるように選びながら決めて、タブレッツトで注文しました。食事は軽やかな音楽とともに配膳ロボットによって次々運ばれてきました。お料理を受け取った後、「ありがとうございます」「バイバイ」と手を振って見送つていて素敵でした。会食後は「お腹いっぱい」「楽しかったね」「美味しかった」と感想を話してくださり、心に残るレストラン外出となったようでした。八月になって、「レストラン楽しかったね。今度は苑に買つて帰つてみんなで食べたい!」とお話された方がいて、「食堂で食べた」「ハンバーガーがいいな」「ピザもいいね」「コーラも」と、外出の経験をもとに、「今度は……」と話して盛り上がる姿が見られました。五月から七月のレストラン外出が、共通の話題として楽しめる経験となつていくことをとても嬉しく思いました。

いつも通りの毎日

五十代の半ばを過ぎ、仕事でもプライベートでも人生の転機を意識する年齢になりました。若い頃は何事にもがむしゃらに取り組み、充実した毎日を過ごしていましたが、今改めて思うのは「何気ない日常生活の大切さ」です。毎朝決まった時間に起床して元気に仕事へ向かい、職場では子どもたちと遊びを楽しむ、美味しい給食を食べる。家庭では家族を笑顔で送り迎える。こうした平穩なルーティンは、心身の健康と周囲の支えがあつて初めて成り立つと深く実感しています。

この「日常の繰り返し」の大切さは、日々の療育の現場でも見られます。昨日までは興味を示さなかったペープサートに今日は立ち止まって注目したり、白ご飯しか食べなかったお子さんが唐揚げを一口食べられたり、大人任せだったお着替えて自らズボンに足を入れたり。一見すると小さな一歩かもしれませんが、毎日の積み重ねの中でお子さんたちが成長を見せてくれる瞬間に立ち会えることは私にとって毎日の喜びとなっています。

変わり映えないように見える日常こそ、人生の本質的な豊かさが詰まっていると感じています。これからも周囲や心身の健康に感謝しながら、お子さんたちの「いつも通りの毎日」を大切にして日々過ごしていきたいと思います。

随分前になりますが、まだ、親亡き後は入所施設へと言われていた頃、「僕は入所施設に行きたくない。家に居たい」と常日頃から言われる知的障害の方が近くにいました。こんなに嫌なら、他に住む場所はないのか、何か方法がないのかと考えるようになり、何かできたらという思いから、現在の仕事を選びました。

近年は障害者の方が地域で生活することは日常的なことになっていると感じています。今年度から意思決定支援の提供の義務化もあり、住む場所も、利用者の気持ちに沿い、実現に向けて支援の計画を立てていきます。「一人暮らし」「グループホーム」「自宅」「入所施設」と自分で住みたいところを選ぶ権利が尊重されるようになったのはうれしいことです。

実際に一人暮らしを体験した方の話を聞いたことがあります。最初は毎日、自宅で過ごしても大丈夫と張り切っていた方が、実際に体験すると「体験は増やさなくてよいです」と言われ始め、その方は何か思うところがあつたようです。

体験してみると、今まで見えなかったもの、気付かなかつたことが見えてくるのかもしれない。経験をすること、また違った考えや思いが出てきて当然です。

その時々、利用者さんの素直で正直な気持ちに寄り添えるような支援を取り組んでいけるように精進していきたいと思っています。

第三十三回ふれあい祭を十一月七日に開催します。

ステージ・ゲーム・作品展示・模
擬店など

十時開始・十二時三十分終了です。
是非お越しください。

広島安芸法人会
瀬野川支部

支部長 水野 修治様

瀬野キャンパス家族会様

宗盛 幸江様

澤村 豊様

夏の強い日差しも少しずつ和らぎ
始めました。

今後も行事報告等、様々な記事を掲載していきたいと思っています。皆さまのご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

